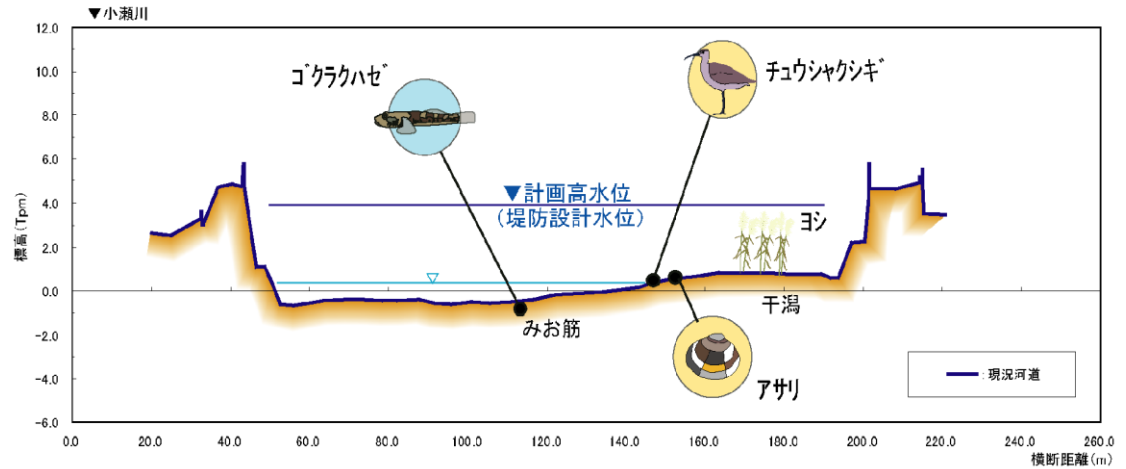


河口部<河口～中市堰>

- 河口部～中市堰の間は、感潮区間であり海水と淡水が混ざる汽水域となっています。
- 河口部には植生は殆ど見られませんが、海浜植生であるナガミノオニシバ群落や塩生のヨシ群落が僅かに分布しています。
- 動物では回遊魚のゴクラクハゼやマハゼなどの魚類やアサリ、クチバガイなどの多様な底生動物が生息する一方で、干潟は、それらを捕食するサギ類、シギ類、チドリ類など鳥類の餌場や休息場となっています。
- 中市堰は、魚道設置により下流部との水域の連続性を確保しています。



▲中市堰と魚道



▲アサリ



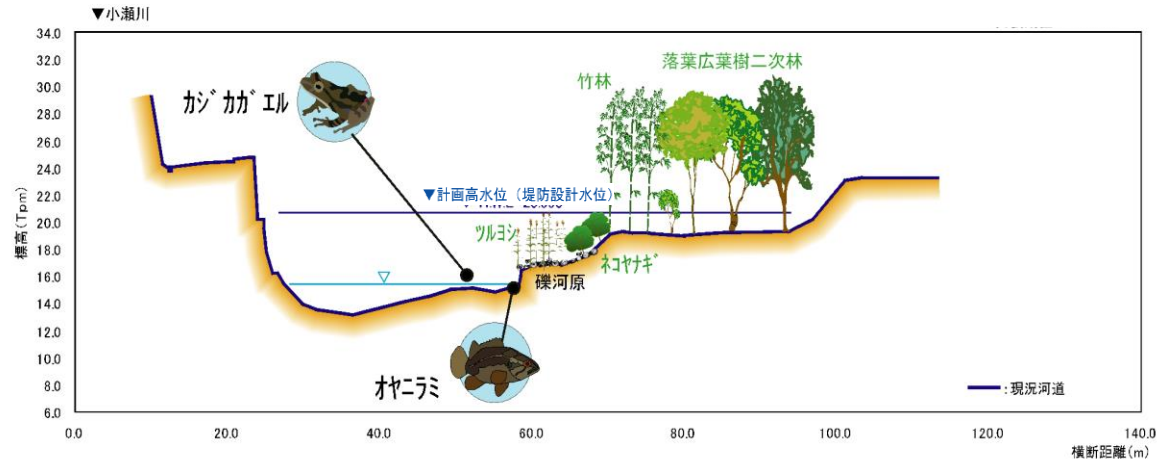
▲チュウシャクシギ



▲塩生のヨシ群落

下流部<中市堰～弥栄ダム>

- ツルヨシやネコヤナギが群落を形成しており、河原およびその周辺ではキシツツジ、シイモチ、シランなどの重要な種が生育しています。
- 鳥類では一般に山間の溪流環境を好むカワガラスや、カワセミなどの水鳥がみられ、水域では両国橋付近の瀬がアユにとって良好な産卵場となっています。
- 水際の抽水植物帯にはオヤニラミが、ワンド状の止水・緩流部ではメダカが生息し、大きい転石がみられる瀬は両生類のカジカガエルの生息・生育・繁殖環境となっています。



▲キシツツジ



▲オヤニラミ



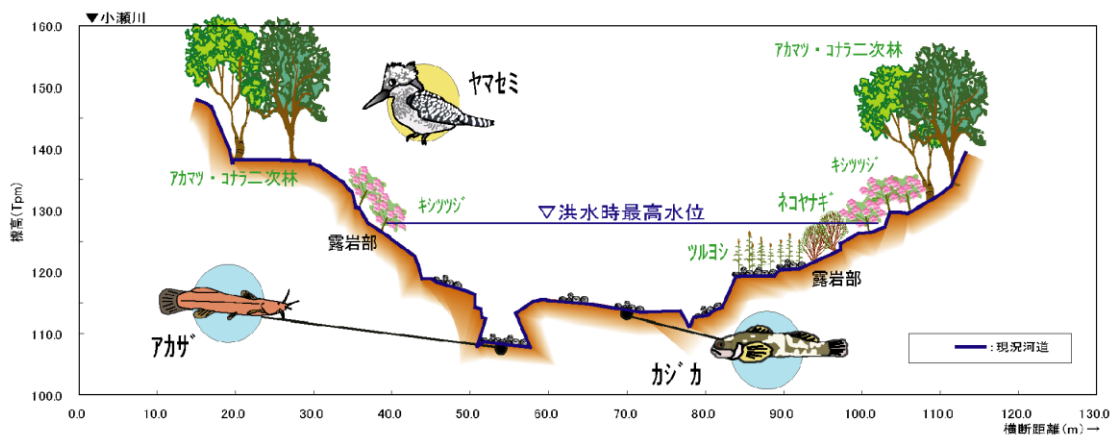
▲カジカガエル



▲カワガラス

中流部<弥栄ダム～小瀬川ダム>

- 蛇行に伴い形成された変化に富んだ河川径間・弥栄峡といった露岩の景勝地が点在しています。
- 河岸の露岩にキシツツジ、コウヤミズキ、ヤシャゼンマイ等の植物が生育しています。
- 浮き石状態の瀬にアカザ、カジカが生息。細流にはブチサンショウオが確認されています。
- 弥栄ダムの建設に伴うダム湖（止水域）の形成により、コイ、フナ、ナマズ等の止水性の魚類が多く確認されるようになっていきます。
- 特定外来生物であるブルーギル、オオクチバスの生息も確認されています。



▲ヤマセミ



▲河畔林と露岩 (蛇喰磐)



▲アカザ



▲ブチサンショウオ